

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	知識・技能の定着率を上げること、学習計画を立て、家庭学習を習慣化することが課題である。改善策として、スタディサプリやドリルパーク、デジタル教科書等を授業でさらに活用し、「個別最適な学び」が実現できるようにする。また年間を通して課題配信の回数を増やし、生徒が自主的に学習に取り組む機会を多く設ける。
思考・判断・表現	より生徒が主体的・探求的に活動できる学習活動の設定が課題である。改善策として、授業で身に付けた知識・技能を活用する場面や課題を授業で取り上げる。また、ICTを活用し、自分の考えを他者と共有したり、話しあいながら考えを深めたりする「協働的な学び」の活動をさらに設定する。また、学んだことを振り返り、次の学習につなげさせる場面をつくる。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能が定着していない部分がある。 <指導上の課題> 学習習慣の定着を促す指導について改善が必要。	「スタディサプリ」「ドリルパーク」を活用し、基本的な内容の習熟に取り組む時間を設定する【毎週1度実施】。 定期テスト後の期間を中心に「家庭学習強化週間」を設定し、家庭学習の習慣化を促す【毎学期に1度の実施】。 「家庭学習強化週間」の最終日に、基礎的・基本的な知識・技能を問う小テストを実施する【全学年正答率80%以上】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> さいたま市学習状況調査において、市平均正答率を下回っている。 <指導上の課題> 授業の中で「学びのポイント」を意識した取組をさらに増やす必要がある。	各教科「学びのポイント」に即した授業を行い、主体的・探究的な学びの場を設定する【「学びの指標」の「主体的」「探究的」「ICT」の学校平均について昨年度+0.2pt以上】。 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実施し、特に自力解決・協働解決・メタ認知の場を設定する【さいたま市学習状況調査市平均+1pt】。

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	2月末まで、学校全体での「スタディサプリ」課題配信は各クラス8.8回/週(計370回)、「家庭学習強化週間」を毎学期1回実施、「家庭学習強化週間」後の小テストの正答率は、1学期82%、2学期87%以上であった。
思考・判断・表現	C	2学期の「学びの指標」の結果、昨年度より「主体的」+0.08pt、「探究的」-0.07pt、「ICT」-0.14ptであった。また、さいたま市学習状況調査では、市平均正答率より-1~5ptであった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、意見と根拠などの情報どうしの関係を理解する力、文の成分の照応について理解する力に課題がみられた。また数学の「図形」「データの活用」において全国平均正答率をやや上回り、「数と式」「関数」においては、式に表現したり式やグラフをよみとったりすることに課題がみられた。特に「関数」については、昨年度も課題がみられた領域であった。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」において、自分の考えをまとめ分りやすく話す力に成果がみられた。「書くこと」においては、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する力に課題がみられた。「書くこと」については、昨年度も課題がみられた内容であった。数学の「数と式」「データの活用」において、式やグラフから意味をよみとる力に課題がみられた。また昨年度に引き続き、課題解決の方法を説明する力に課題がみられた。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	1・2学年、4教科ともに市平均を下回った。2学年の偏差値の同集団経年比較では、ほぼ同値~微増であった。また、自分で計画的に学習している生徒は市平均とほぼ同等であり、授業外での学習時間は市平均を下回った。継続的な指導や繰り返しの指導によって知識・技能の定着が図られたと考えられるが、市平均に届くようさらに授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	1・2学年ともに市平均を下回った。特に1学年数学には課題がみられた。2学年の偏差値の同集団経年比較では、国語、数学、理科では微増であった。授業の中で話しあいながら自分の考えを深めることができる生徒は、市平均とほぼ同等であった。継続的な指導や繰り返しの指導の成果と考えられるが、知識・技能よりも市平均との差が大きいので、身に付けた知識・技能を活用する場を今まで以上に設定していく。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	1学期中、学校全体での「スタディサプリ」課題配信は各クラス11回/週(計187回)、「家庭学習強化週間」を1回実施、「家庭学習強化週間」後の小テストの正答率は全体で82%であった。	変更なし
思考・判断・表現	C	1学期の「学びの指標」アンケートにおいて、昨年度より「主体的」+0.11pt、「探究的」-0.02pt、「ICT」-0.26ptであった。	各教科の授業でICTを活用した「協働的な学び」を取り入れ、考えを共有したり比較したりする。【「学びの指標」の「主体的」「探究的」「ICT」の学校平均について昨年度+0.2pt以上】、【さいたま市学習状況調査市平均+1pt】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)